

会 議 録

1 会議名

平成30年度第3回八千浦区地域協議会

2 議題

【自主的審議事項】

海岸線の道路及び海岸のごみ問題について（公開）

3 開催日時

平成30年9月25日（火）午後6時30分から午後7時12分

4 開催場所

八千浦交流館はまぐみ 多目的室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 仲田紀夫（会長）、大島 進（副会長）、笠原武、笠原幸博、関川幹雄、丸山光雄、柳澤 篤、渡辺孝三郎（欠席4名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：滝澤センター長、小池係長、千田主任

8 発言の内容

【滝澤センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【仲田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：大島副会長、笠原幸博委員に依頼

議題【自主的審議事項】海岸線の道路及び海岸のごみ問題について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

8月10日（金）に7名の委員から参加していただき、海岸のごみの状況について視

察を行った。悪天候の中集まっていたいただき、御礼申し上げます。

本日は、視察に参加された委員から感想を伺い、現状について認識を共有した上で自主的審議事項の今後の進め方について、どのように進めていけば良いか御意見を伺いたい。また、今後、自主審議を進める上で必要な資料や、特に説明を求めたい部署などあれば調整させていただきたい。

【仲田会長】

それでは、参加された委員から感想を述べていただきたいと思います。

【柳澤委員】

啓発看板はいくつか立っているが、結局はモラルの問題なのではないかと感じた。

【笠原武委員】

確かに看板を多く立てたからと言ってごみが減るわけではない。ごみの集積所を設置しても誰が管理するのかという問題も出てくる。最終的には利用者が自主的にごみを持ち帰るよう呼び掛けるしかないのではないかと。

【笠原幸博委員】

ごみがあるということは八千浦の海に多くの人に来てくれているのだと思うが、海は八千浦区の宝だと思っているので、これから先のことを考えると皆さんで立ち上がったほうが良いのではないかと感じた。

【丸山委員】

ごみ捨てを抑制するために仮の監視カメラ等を設置してはどうかと思うが、今後、どのようにしたら良いのかを考えなくてはいけない。

【渡辺孝三郎委員】

定期的に掃除をすれば良いのかもしれないが、だれが行うかである。

【柳澤委員】

市の生活環境課は、どれくらいの頻度でパトロールを行っているのか。

【千田主任】

週に一度はパトロールをしていると聞いている。

【笠原武委員】

八千浦地区明るいまちづくり協議会の生活環境部では年に3回程度行っている。

【仲田会長】

市の海岸線環境美化推進協議会では6月、7月、8月に行っているが、ごみ収集では

なく、パトロールが主である。

何日か前に海岸線の道路を通ったが、中部電力の入り口から100mくらい先にポリ袋の中身をカラスが突いて散らかしたようなごみが落ちていたり、そこから2、30m先にも、そのまま持って帰られる状態の大きなごみがあったり、海岸線は結構ごみが多かった。

空き缶1個が捨てられているだけという状況ではない。袋にまとめて捨ててあるケースが多い。

【大島副会長】

花火とバーベキューのごみが多いと感じるが、割れたビール瓶等が砂に紛れて砂浜に捨てられている時がある。それに気付かず裸足で歩いていたら怪我をしてしまったということで町内の方々と一緒に確認したところ、砂を掘るとビール瓶等の欠片が出てきた。目に見えているごみもあるが、草むらや砂の中に隠す人もいる。

私が消防団に所属していた頃、夜間、パトロールを行っていた際、キャンプや火を使っている人たちに注意をするが、やはりそのままキャンプや花火をしている。だが、消防団としても注意するまでしかできない。

上越市内でバーベキューができる環境でお金を払わないでできる場所というのは八千浦しかない。他区では、海水浴場として管理されているが、西ヶ窪浜の海岸は海水浴場として管理されていないので、管理されていないということが、現状のような形になってきていると思っている。

長野県や群馬県の方々も非常に良く知っており、海岸に出るための近道や脇道も情報として流れているとのこと。

個人のモラルも大事だが、町内でも対応しきれなくなっている。

【仲田会長】

夏場は草が生い茂っていて分かりづらいが、駐車場から山側の土手に多数のごみがあって、町内の方々もやりきれないと思う。

該当町内は夷浜と西ヶ窪浜になるが、町内で何か話し合っていることはあるか。

【渡辺孝三郎委員】

クリーン作戦の際はボランティアでごみ拾い等を行っている。

【大島副会長】

西ヶ窪浜では、「自分たちで解決する」というような発言だけで終わっていて現状に至

っているので、それも一つの要因なのではないかと思っている。ただ、不特定多数の方々が来られるので難しい点もある。

今年から八千浦学園全体でクリーン活動を行うことになっているので、子ども達と一緒に海岸清掃を行い、海岸のごみについて子ども達も一緒になって考えていきたい。

【仲田会長】

6月に地元企業と子ども達が一緒になってクリーン活動を行ったが、2tトラック1台分ほど集まった。花火の跡や空き缶、食べ残しのごみというのはどこへ行ってもある。黒井の海岸は日本海水化工の跡地がほとんど埋まってきたのでごみはない。年に2、3回程度、団体の方々が自主的にごみ拾い等を行っているが、南側は不法投棄が結構あり、漁港がある北側は漁師がいるのでほとんどない。

結局黒井の方々は看板を多数立て、釣り人に呼び掛けをしている。

特に不法投棄が目立っているのは、黒井の交差点から港町へ向かう道路脇である。

【笠原武委員】

下荒浜の信号機から工業団地へ向かうところの両側に袋ごと置いてあり、それをカラスが突っつくのでごみが散乱する。場所は工業団地の中なので管理人が片付けているようだが、あまり手は回っていないと思う。

看板を立てて啓蒙活動を行い、計画を立てて自主的に清掃を行うしかないのではないかと。

【仲田会長】

参考までにだが、密漁が多くなって来る時期の前に海上保安庁が取締を行う。だが、啓発看板等を立てないと取り締まることが厳しいとのこと。看板があれば注意しやすいし、取り締まることもできる。近辺に看板が2枚立っており、何年か前に明るいまちづくり協議会で立てた看板もある。ごみ箱を置いたらどうかという提案も出たが、不法投棄が増える可能性もあるので置くことはできない。

直江津海水浴場のようにキャンプ場に指定されれば良いのではないかと。

【丸山委員】

他区ではどのような対策を取っているのか。

【仲田会長】

以前は集めたごみをその場で燃やすことができたが、今はしてはいけないし埋めることもできないため持ち帰るしかないが、持ち帰れてもプラスチックごみくらいしかない。

海岸線環境美化推進協議会では、主に直江津の船見公園から郷津海岸まで各町内会に分かれて清掃活動を行うが、年に2回くらいしか行わない。ただ、ごみの量は最近減ってきているとのことだが、国府小学校の下辺りは増えてきているとのこと。

【笠原武委員】

確かにクリーン活動を行っていても、ごみは少なくなってきたと感じている。特に下荒浜の場合は国道が近いのでタイヤ等の大きな物が置いていかれる時もあるが、最近は少なくなってきた。

【仲田会長】

道路脇の不法投棄は減ってきている。

黒井でクリーン活動を行っているが、西ヶ窪浜までは行かない。

【大島副会長】

西ヶ窪浜の海岸沿いにトイレがあるので利用しやすいということもある。

【仲田会長】

今後の進め方についてはどうか。

【笠原武委員】

大潟区はどのように対処しているのか。

【仲田会長】

各町内で行っているが、一斉に行うのは年に1回だけで、海水浴シーズンに入る前にやっている。

【大島副会長】

犀潟で漁師の方々が自主的にごみを集めている姿をよく見る。

【柳澤委員】

今後の進め方については具体的な案はないが、各町内でどのようなことをやっているのかを確認するのはどうか。

【大島副会長】

地域協議会で課題として協議しているが、西ヶ窪浜町内では問題として取り上げていないので、海水浴シーズンは終わったが、再度町内会へ投げかけても良いのではないかと。

【関川幹雄委員】

大きな看板を設置して、ただ「ごみ捨て禁止」とするのではなく、町内の思いを訴えるような看板を設置したらどうか。

【大島副会長】

確かに「キャンプ禁止」、「ごみを捨てちゃ駄目」というような文言しか書いていない看板が多いので、何故捨てては駄目なのかという理由を、ごみを捨てる人たちに知ってもらうということも良いことだと思う。

【仲田会長】

事務局で調べていただきたいのだが、海岸線環境美化推進協議会で訴えの看板を造るということになっていると思うので確認していただきたい。

【滝澤センター長】

承知した。

海岸の視察に私も同行させていただいたが、やはり花火とバーベキューのごみが多いと感じた。

町内の方々が頑張って綺麗にしたのに、またごみを置いて行かれると、ただの繰り返しになってしまう。海岸に来られる方々も綺麗な海を求めて来られると思うので何か策はないかと事務局でも考えている。

【仲田会長】

「不法投棄」と「置いていく」には違いがあるため分けて考えていきたい。まずは「置いていくごみ」を少なくしていきたい。

他区の実態はどうなのか。訴えの看板を検討してみる。そして、西ヶ窪浜と夷浜の意見をお聴きし、地域協議会として自主的審議事項をどのように進めていくかを考えていきたい。

海岸線環境美化推進協議会でチラシを作成していると思うが、近隣の釣具店に協力をお願いし、買い物客にチラシを渡してもらおう。コンビニや市外の釣具店にも協力をお願いしているかもしれない。

地元の意見を反映させるために地元の方々と意見交換し実態が分かれば参考にしていき、チラシや看板等で訴えかける。少しずつでも前に進んでいくしかない。

以上のような方向性でいきたいと思うがよろしいか。

(異議なし)

では、そのようにしたい。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

現在、諮問等の案件は入っていないため、引き続き自主的審議事項について協議して
いただきたいと思います。

日程については、会長と副会長と相談の上、皆さんへ報告する。

【仲田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。